

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年10月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0770101897		
法人名	社会福祉法人 ゆず福祉会		
事業所名	グループホーム ユーズホーム		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字台1番1 (電話) 024-555-1213		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年9月29日	評価確定日	平成20年10月21日

【情報提供票より】(20年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,930 円	その他の経費(月額)	21,120 円	
敷金	有() 円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,150 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2		3名	
要介護3	3名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大原総合病院附属清水病院 いずみ歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

信夫山の北側で小学校、新興住宅街や大型ドラッグストアの近くにあり、同法人が運営する居宅介護支援事業所と通所介護事業所が同じ敷地内にある1ユニットの事業所である。利用者の普段の生活を一番に考え、季節ごとの行事を大切に、利用者に教えてもらいながら行っている。職員は利用者本位に支援しているため、利用者は落ち着いて自分のペースで生活している様子が伝わってくる。地域密着型サービス事業所として地域と連携しているため、地域の中でも事業所が認知されてきている。地域の行事等に出かけても、『ゆずの人だね』と声かけられるようになってきており、『行事に出てみるかい』と誘われることが多くなり、利用者と一緒に参加するようにしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で取り組みを期待したい項目と指摘された、「食事を楽しむことのできる支援」について、法人とも協議し、職員が利用者と同じものが食べられるような体制となった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価の意義並びに活用方法について職員へ伝え、サービスの質の向上に努めている。全職員で自己評価に関わり作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	地域包括支援センター職員、町内会会長、民生委員、家族代表等に委員をお願いし、概ね2ヶ月に1回開催している。運営推進会議では、事業所概要、事業所内の行事、職員の研修会参加状況、外部評価等を報告している。運営推進会議で出された意見については、サービスの質の向上に活かしている。また、運営推進会議の中で外部評価の取り組みを期待したい項目となった部分の改善状況を報告している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族の訪問があるため、日頃の利用者の様子や職員の異動等詳しく伝え、家族の要望や意見等を言いやすい雰囲気を作っている。また、年に1~2回家族懇談会を開催し、家族の意見等を言える場面を作っている。出された意見等は申し送りされ、運営に反映している。今後は、些細な意見や要望も記録として残していければ、さらに良いと思われる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事(会合、お祭り、運動会、防災訓練等)に利用者と一緒に参加しており、事業所でも地域の人達が参加できる夏祭り等を開催しているため、双方向で地域と交流が行われている。また、大正琴、フラダンス、ハーモニカアンサンブル、日本舞踊、ハンドベル、童謡、コーラス、民話茶屋の会等さまざまなボランティアサークルや小学生、中学生、保育園の子ども達の訪問もあり、事業所はいつも賑やかに訪問客が訪れている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『地域の人との交流を図り、グループホームの役割を伝え、理解してもらえるよう働きかける』と、地域密着型サービス事業所としての役割を反映した理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共有空間や職員室に理念を掲示し、いつでも確認できるようにしてある。また、会議の際に理念を意識して話し合うようにしている。理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の会合、お祭り、運動会、防災訓練等さまざまな集まりに利用者と共に出席している。地域のボランティアや小学生、中学生、見学の人々が度々訪れたり、地域の人を事業所の夏祭り等に招待したりし、双方向で交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価で取り組みを期待したい項目となった「食事を楽しむことのできる支援」は、法人内で検討し、職員も同じものが食べられるような体制となった。また、今回の自己評価は、全ての職員が関わって作り上げた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣にある通所介護の施設内で、概ね2ヶ月に1回開催されている。家族代表の参加者は都合の付く家族全員に依頼している。そのため、6名も家族代表が参加することがある。また、委員から出された意見をサービス向上に活かしている。		会議形式だったり、行事参加型だったり、運営推進会議の開催については、さまざまな形が考えられる。できるだけ、利用者の状況が理解してもらえるような工夫ができれば、さらに良いと思われる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホームで作成する「ユーズホームだより」を2ヶ月に1回発行し、隣接する事業所と合同で法人だよりも発行している。家族へは利用者の近況、金銭管理、職員の異動、健康状態等をお手紙や訪問時の報告で行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会が1年に1~2回開催されており、意見や要望を聞き取っている。また、面会時に要望、意見、不満、苦情を言いやすいよう日頃の様子を詳しく伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあまりない。職員の異動等による利用者のダメージを少なくするように、引継ぎ期間が3週間程度あり、一緒に処遇に当たるようにして、利用者の動揺を最小限にする体制を取っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に職員を出席させており、出席した職員から伝達研修がされている。さらに、事業所内勉強会を実施しているが、記録等で確認できないのは残念である。		今後は、事業所内研修会も記録に残していければ、さらに良いと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会に加入し、管理者研修等に積極的に参加している。できるだけ多くの職員に同業者と交流する機会を確保し、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や料理、梅干作りなどを教えてもらい、利用者と職員が一緒に行い、また、食事の準備や洗濯物干し等日常生活の中で利用者が出来ることはお願いし、職員と利用者で支えあいながら行っている。何気ない利用者の仕草からも職員が教えられることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりの中から本人の意向を把握するよう努めている。あまり自分の意思を表現しない利用者の場合、家族からも情報を得るよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや意向を基に介護計画を作成している。ただ、介護計画の中の短期目標については、対象期間で達成できないような目標を立てており、何度も同じ目標が掲げられている。また、援助内容が多いために、職員も覚えきれずにいる。	○	介護計画の短期目標については、期間内のできる具体的な目標とすることで、利用者の現状に合った計画になるものと思われる。また、今の利用者の状況で本当に必要な部分に絞った援助内容とすれば、職員にも周知できるものと思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の希望、状態変化を踏まえ3ヶ月ごとにケア検討会議を行い、サービス内容を見直している。	○	事故発生、疾病による心身の変化や利用者や家族の意向の変更などがある場合は、3ヶ月ごとの見直しではなく、状態変化に応じ速やかに介護計画を見直すことが大切である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、安定した受診が行われており、事業所もそれぞれのかかりつけ医との連携を強化し、適切な医療が受けられるよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況により個別に終末期の希望を聞いているが事業所としての基本方針、具体的サービス内容の標準化までには至っていない。	○	重度化や終末期のあり方について、設備、サービス内容など事業所としての基本方針を明確にし、それにより、利用者、家族、かかりつけ医と繰り返し話し合い、全員が納得できるよう支援することが必要になってくると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日の支援の中で誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底し、職員の個人情報の守秘義務についても組織的に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の体調、気持ちに配慮し散歩、買い物、畑仕事や縫い物、絵画、書、などの作品づくり、テレビ、読書など希望に沿った暮らしを支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に応じてご飯とパンを選べたり、副食、飲み物等の選択ができるメニューを準備している。賄い材料の買い物、調理、後片付けを利用者と一緒に行い食事を楽しむことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望、体調に応じて入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	食事作り、家庭菜園、絵や書、折り紙、裁縫、生け花など経験や得意なもので力を発揮し生き生きと生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の身体状況に関わらず、天気や利用者の希望に応じて日常的に散歩や買い物、ドライブを行っている。また、家族の協力も得ながら墓参りに行ったり、昔馴染みの場所に出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解し、ストレスを与えないきめ細かな見守り、声掛けなどにより対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応マニュアルを作成し、年2回の訓練をするとともに地域の消防署の指導を受けた訓練をしたり、災害時に地域の人々の協力が得られよう要請している。まだ、災害時の備蓄等はされていない。	○	利用者の状況に応じた非常食や飲料水等の備蓄をすることや事業所内で火災発生を仮定した夜間時の訓練をされればさらに良いと思われる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好や栄養バランスを考え喜んで食べられるよう支援している。食べる量や水分摂取が少ない方には個別に柔軟な対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋外には季節の草花があり、居間には行事の際の写真や利用者の作品や鉢植え等があり、金魚を飼育している。食堂に隣接した畳の和室には掘りごたつがあるなど生活観や季節感を取り入れ、落ち着いたやすらぎのある空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口にそれぞれリースや折り紙作品を飾ったり、居室内に思い思いの写真や自分の作った作品を飾り楽しんでいる。テレビや家具などを自由に持ち込み生活を楽しめるようになっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム ユーズホーム

記入担当者名 小関 千里

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。